

412支保工を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	3	9～10	マンション建築工事にて5Fで作業中、梁の主筋材を場内小運搬時に誤って型枠の梁右に足を踏み入れてしまい、手に持っていた鉄筋と床の角パイプの間に右手中指を挟んで負傷した。	39	1	30201	1～9人
2	2018	3	10～11	マンション新築工事現場7階床型枠上で、スラブ型枠を組み立てているときに、スラブ型枠を所定の場所介?ロープを引いて誘導中に強風に煽られ、7階より2.9m下の6階床コンクリート上へ両足から落下し、左足を負傷した。	39	1	30201	10～29人
3	2018	5	8～9	橋梁建設現場内の緩やかな勾配のある場所で、仮設支柱材を撤去・解体の作業中、誤って支柱間を繋ぐ部材を先に外してしまい単独自立状態となり、1つが倒れ次々に将棋倒しとなり、パネルの間で作業を行っていた被災者が逃げ遅れ、支柱に右足を挟まれ負傷した。	29	5	30106	10～29人
4	2018	6	19～20	道路工事のトンネル堀削工において、左側フォアボーリング打設が完了し、発破孔のマーキングをするため切羽面に移動して作業していたところ、上部のコンクリート片が落下し、首から肩にかけて負傷した。	48	4	30102	10～29人
5	2018	8	7～8	マンションで使う梁の型枠をバラス作業中、型枠を固定する際、誤って型枠が倒れてしまい、下敷きになり負傷した。	53	5	10901	10～29人

6	2018	8	11 ～ 12	型枠の解体作業中、外して立て掛けてあった金属製型枠が自然に倒れてしまい、左足上に当たり左足親指の付け根を受傷した。	68	4	30109	1 ～ 9 人
7	2018	8	8 ～ 9	基礎地中梁コンクリート打設時に小雨が降り、型枠上が滑りやすくなっており、足を滑らせてピット土間に転落した際に、右手首を骨折した。	51	1	30201	10 ～ 29 人
8	2018	9	13 ～ 14	深さ4m、幅3.5mの掘削工事現場で、土止め支保工に対する点検・補修のため、支保工材に地上から足を乗せたが、想定よりゆるんでおり支保工材ごと落下し、骨盤等を折った。	62	1	30110	10 ～ 29 人
9	2018	9	13 ～ 14	深さ4m、幅3.5mの掘削工事現場で、土止め支保工に対する点検・補修のため、支保工材に地上から足を乗せたが、想定よりゆるんでおり支保工材ごと落下し、骨盤等を折った。	62	1	30110	10 ～ 29 人
10	2018	9	13 ～ 14	深さ4m、幅3.5mの掘削工事現場で、土止め支保工に対する点検・補修のため、支保工材に地上から足を乗せたが、想定よりゆるんでおり支保工材ごと落下し、骨盤等を折った。	62	1	30110	10 ～ 29 人
11	2018	9	13 ～ 14	深さ4m、幅3.5mの掘削工事現場で、土止め支保工に対する点検・補修のため、支保工材に地上から足を乗せたが、想定よりゆるんでおり支保工材ごと落下し、骨盤等を折った。	62	1	30110	10 ～ 29 人
12	2018	10	11 ～ 12	建築作業中、屋根端部から1m下の床スラブへ後ろ向きに下りていたところ、床スラブに設置してあるコンクリート型枠に足を引っ掛けてバランスを崩し、右腕が折板屋根端部に接触して切り傷を負った。	21	1	30109	10 ～ 29 人

13	2018	11	11 ～ 12	クレーン船の吊り荷誘導作業を終え、次の誘導箇所に移動する際、安全帯を親綱から外した瞬間にバランスを崩し、約4m下に転落した。	47	1	30107	10 ～ 29 人
14	2018	12	8 ～ 9	下水道新設工事現場で、簡易土留上部にシート設置の補強材を設置中、バランスを崩して落下し、足から着地した際に左足首を骨折及び右足、腰を打撲した。	64	1	30110	10 ～ 29 人

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。